

さくらっ子

輝くこころ 輝くひとみ 輝くからだ

三春町立中郷小学校だより

No. 15

H28. 12. 7

発行責任者 校長 橋本一弥



マラソン記録会

11月30日に今年度のマラソン記録会を行いました。寒さが強くなり始める時期でしたが、晴天に恵まれ良いコンディションのもとで行うことができました。多くの方にご声援いただき、児童も練習の成果を発揮できたようです。また、同日に、教育講演会や給食試食会、フッ化物洗口説明会等も開催し、充実した一日となりました。

マラソン記録会入賞者

※敬称略

1年男子	第1位	鈴木康祐	第2位	橋本侑芽	第3位	佐藤結羽
女子	第1位	柳沼菜乃	第2位	木幡俐王	第3位	村上朝飛
2年男子	第1位	渡邊友明	第2位	眞壁美古都	第3位	上石奏美
女子	第1位	影山日向子	第2位	佐藤 来	今泉京介 (2名同着)	
3年男子	第1位	宗像俐玖	第2位	大橋愛菜	第3位	木幡光希
女子	第1位	鈴木杏彩	第2位	金山荒太	第3位	安部颯人
4年男子	第1位	上石一成	第2位	宗像珠稀子	第3位	橋本典奈
女子	第1位	近内 雅	第2位	鈴木貴博	第3位	過足ののか
5年男子	第1位	橋本 隼	第2位	佐藤心結	第3位	鈴木陸士
女子	第1位	柳沼空花	第2位	宗像洸樹	第3位	鈴木陸士
6年男子	第1位	八木沼奏登	第2位	白岩愛萌	第3位	根本みな
女子	第1位	大橋優菜				

給食試食会 (11月30日)

児童が毎日食べている給食を保護者の方々にも児童と一緒に味わっていただきました。

メニュー：ご飯 春巻き おかか和え、大根の味噌汁、牛乳



しめ縄づくり (12月2日)

伝統の活動を今年も多くの方々のご指導をいただきながら進めることができました。丈の長いブータン米のわらでも挑戦してみました。



「子どもをすこやかに育む環境作り ～生きる力を大人が作る～」

健康生活向上コーディネーター・「希望のくじら」代表理事 大内克泰 様

講師の大内先生は、神奈川県で長くスイミングスクールのコーチをされていた方で、教え子の中からオリンピック選手も出たそうです。原発事故をきっかけに福島県の人々の健康のためにと単身で来県し、伊達市を中心に小・中学校の子どもたちや仮設住宅で生活する方々の健康を守る取組を続けていらっしゃいます。また、ドイツに留学し、「ライフキネテック」という能力向上を図るトレーニングの指導資格を取得しており、その内容は大学から講義を依頼されるほどです。今回は、保護者向けに講義、児童向けに実技の指導をいただきました。

講義では、成長における身体活動と神経の発達の関係などについて分かりやすくお話いただきました。子どもの時期に体を動かさなければ身体はもとより、大切な脳が正常に発達しないこと、子どもと一緒に運動する時間を大人が工夫して作ることがいかに大切かなどについてご指導いただきました。特に、子どもに運動の課題を与えて、考えさせ、チャレンジする心を育てる働きかけがとても重要なこと、その中で、失敗したらしからずに考えてさせるサポートがとても重要、といった貴重なお話でした。

児童には、全校生でできる鬼遊びなどをユーモアたっぷりにご指導いただき、元気いっぱい活動しました。

大内先生には、今後も機会をつくり、ご指導いただければと思っています。



子どもをたくましく育てるために その11 時には徹底して振り返らせる、我慢させる

以前に、聖光学院高校野球部の監督のお話をお聞きする機会がありました。数年前の夏の県大会の決勝では、2年連続で9回まで相手チームに押されながらも大逆転で甲子園に出場したことを記憶している方も多いと思います。追い詰められた土壇場でなぜあのような力が出せるのか、目の前にちらつく敗戦の恐怖で力が発揮できないのが普通ではないか、そんな思いから関心を持ってお聞きしました。

監督によれば、全国から多くの力を持った生徒が集まるので、確かに野球の実力はあるそうです。しかし、そのこととチームが勝つことは一致しないようで、むしろ、逆に過剰な自信や独りよがり陥ってハングリー精神や仲間への思いやりを欠いてしまうこともあるそうです。心を耕し育てる必要性を感じ、毎年、チームの状況を見ながらあの手この手で心に訴える取組をしているとのことでした。

中でも驚いたのが、チームがまとまりのない状況だったときに、長期のグラウンド立入禁止処分を下したエピソードです。野球に命をかけている生徒が長い間グラウンドに入れなことがどんなことか想像できるでしょう。監督にとっても一か八かの策だったようです。しばらくの間、生徒は時間をもてあましていましたが、やがて自主的に清掃活動を始める生徒が出てきたそうです。それがチームに広がり、地域全体へのボランティア活動に発展していきました。地域の方々に感謝されて、チーム全体の意識が変わってきたそうです。一月以上続け、晴れてグラウンドに戻った生徒は、初心に戻って練習に打ち込み、チームもまとまっていったということでした。そして、その冬に大雪に襲われた際には、生徒が自主的に、そして一丸となって困っている家の雪かき作業を買って出て、地域住民からとても感謝されたそうです。そしてこの心の高まりがチームの結束を生み、あの逆転劇につながったといえるとのことでした。

このエピソードには、教育や子育てに通じる様々なヒントがあると感じます。子どもがあまり望まないような言動をとっているような時に、立ち止まってじっくりと振り返らせることや我慢を通して考えさせることがいかに大切かを思い知らされました。そして、ややもすると目先のことに気をとられたり先を急いだりして、なかなか徹底することができていない自分自身を反省した次第です。

「急がば回れ」とよく言われますが、力を発揮できる人間に育てる大切なポイントとその方法の一つを教えていただいたように思います。